



# AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス(JSO)

No.148

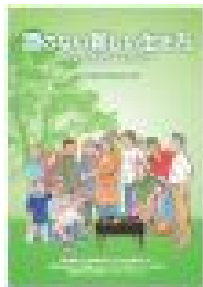
## 小冊子「酒のない新しい生き方 - こんな世界があるなんて - 」リニューアル

矯正施設や更生施設にいたAAメンバーが、自分の経験を穏やかに語ります。たいへん読みやすい内容になっております。矯正施設等へのご活用はもちろんのこと、多方面へのご活用をお願いいたします。

矯正担当理事 服部

小冊子「こんな世界があるなんて」が「酒のない新しい生き方-こんな世界があるなんて-」と改名してリニューアルいたしました。

表紙は明るい木洩れ日の中、お酒のないバーベキューを楽しんでいる人たちのイラストが描かれており、どこかでお会いしたことがある人たちでは?と思えるイラストに変わりました。大きさもB5判からA5判(BOX916サイズ)になってコンパクトになり、お値段も300円と一段とお手頃になったと思います。



本文は“私たちが留置所や刑務所にいた時”という表現で、かつて矯正施設(刑務所・少年刑務所・拘置所・少年院・少年鑑別所・婦人補導院)や更生施設にいたAAメンバーが「自分の経験や、思ってきたこと、感じてきたことを語ってみようと思います。」と、これからプログラムを始めようとする仲間にも穏やかに語り始めます。その経験は施設に入所中から始まり、社会復帰の際に感じる不安や、社会復帰後に気をつけて欲しい事柄までに及んで書かれています。

この本は、メンバーはもちろんのこと、矯正・更生関連施設に入所中の方や、保護観察所、保護司さんの研修会などでは関係機関の方にも活用していただいています。

また私がメッセージで参加させてもらっている刑事施設(刑務所・少年刑務所・拘置所)でのお話をさせていただくと、こちらの施設では酒害教育は強制ではなくて、希望者を募集して参加者を決定しているそうです。そしてAAメッセージが行なわれる前の段階では、職員さんが参加者にオリエンテーションを行なっているとの事でしたのでこの本を紹介しました。本文中の“かつての問題飲酒者たちの話を聞いてみることにした”から始まる項ではAAやミーティングを説明する時にイラストを交えてお話ができるのではないのでしょうかと職員さんにお勧めした経験があります。

この刑事施設ではミーティングの最後にQ&Aを行なってきましたが、質問の多くは社会に出てからのものが多いように思います。本文には“社会復帰の第1日目にした

こと、私たちがやってみたことを試してください”と退所後の経験も述べられており、関心の高い「酒のない新しい生き方」への質問にお答えできる内容にもなっているかと思えます。すでに矯正・更生関連施設メッセージに行かれているメンバーや、これからメッセージに行きたいと思っているメンバーには是非読んでいただいて、「酒のない新しい生き方」の経験を分かち合ってきていただけたらと思います。

昨年、埼玉県さいたま市で行われました全国矯正・保護メッセージフォーラムで、基調講演をして下さった法務省矯正局の方のお話では、平成21年度で全国の刑事施設77庁の内35庁で酒害教育を行なっているとのことでした。今後さらに矯正・保護施設関係のメッセージ活動は広がりをもせると思われます。メンバーの皆様のご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。

### 関連書籍のご紹介

#### 矯正施設ワークブック (300円)

このワークブックは、ニューヨークGSOに集められたAAの経験に基づくサービス資料です。AAのワークブックは、さまざまな分野でのメンバーの経験をまとめたものであり、同時に、12の伝統とゼネラルサービス評議会(アメリカ/カナダ)の指針に基づいています。



#### 第4回 AA全国矯正・保護施設 in 浦和 (500円)

2010年11月28日に浦和コミュニティセンターで開催された矯正・保護施設フォーラムの報告書。

司会:

大阪大学大学院教授、A類常任理事

藤岡 淳子先生

基調講演 : 法務省矯正局成人矯正

課補佐官 前澤 幸喜先生

基調講演 : 国立精神・神経医療研究センター病院医師  
小林桜児先生

書籍、パンフレットのご注文は、各セントラルオフィス、またはJSOまでお願いいたします。



## 東北地方大震災

### 震災後の現状と今後について

#### 東北セントラルオフィス スタッフ

2011年3月11日 東北地域は、かつてないほどの大震災に遭いました。その被害状況は甚大で、特に岩手県、宮城県、福島県の沿岸地域は、巷のニュース等で報じられているとおり未だに平常からは程遠い状態です。また辛うじて難を逃れた内陸部でも、電気・水道・ガス等のライフラインがストップしたり、食料品やガソリン等の生活必需品の流通が滞ったりと、不便な生活を強いられる状態でした。

震災から時間がたつにつれ、次第に東北地域のAAも大変な状態であることが判明してきました。そんなことからオフィスでは、3月19日に緊急内勤スタッフ会議を開催し対応が協議されました。いろいろな報告があり、改めて危機的状況であることを再認識する情報ばかりでした。しかし、なかには「夜空の下での懐中電灯ブルーシートミーティング」「車中ミーティングで仲間が集まった」と、いたるところから希望的な報告もあり、本当に霊的なミーティングが開催されたと改めてAAプログラムの力強さを実感しました。

そのスタッフ会議の中では、東北セントラルオフィスは、とりあえず出来ることをやっていこうということになり、即、実行に移されました。まずグループの情報収集に可能な限り努めました。そして、その情報をJSOに提供しホームページに掲載して頂きました。

一日一日の時間がたつにつれ、状況は変わっていきました。通常ミーティングは、開催出来ないもののグループの枠を超えた臨時ミーティングが開催されたり、会場や開催時間を変更したミーティングが開催されたりしました。その情報を関係機関に連絡する等の出来る限りの情報発信に努めました。これからも混乱の日々は続くと思われれます。そんなことから多くの仲間に情報発信の媒体とするべく、この度、東北セントラルオフィスでもホームページを開設することになりました。よろしければ、これをお読みの皆様も是非ご活用下さい。



先日、ある野球選手の「見せましょう！！東北の底力を！！」というスピーチを聞きました。私はこの言葉を聞いたときに「見せましょう！！AA東北地域の一体性の底力を！！」と置き換えて心の中で唱えました。震災後、いろいろな地域の仲間や海外のサービス共同体からも献金等の申し出がありました。

けれどもお願いがあるのです。もう少し私達の、東北地域の一体性を見守って頂けないでしょうか？ちょっと甘えることを許して貰えるなら、東北ラウンドアップや東北地域内グループ主催の催し等に足を運んで頂き、みなさんの笑顔を見せて頂けないでしょうか？その笑顔にどれだけの仲間が前に進む勇気をもたらえることでしょうか。

3月11日の仙台の夜は、停電により本当に星空がきれいでした。その星空の下に居ながら、世界の何処かで、この時間もミーティングが開催されていると思うとそれだけで励まされた気持ちになりました。また震災後のミーティングで仲間に再会した時の喜びや仲間の笑顔は、はじめてAAに繋がった時の感じに似た不思議なものでした。また改めてサービスの必要性についても感じる事が出来ました。この経験という宝物をこれからも伝えていきたいと思えます。

仲間と祈りのある今日一日に感謝！！

### ミーティングレポート

#### 東北地域見聞録（その1）

関東甲信越地域 後期評議員 館野

今回の東日本大震災で被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げますとともに、皆様の大きな力で復興し、今までどおりの生活が一日も早く戻りますようお願い申し上げます。

震災後の4月29日に、仲間と2人で宮城県仙台市に行つてまいりました。「見聞録」などという大層なものは書けませんが、自分自身が震災時に感じたことなども含めて書きたいと思えます。

#### 地震発生時、

私は東京・江東区にある職場で休憩中でした。すぐに収まるだろうという考えに反して、異様なほどに長い揺れが続き、次第に職場が大きな音を立てて激しい揺れに変わっていきました。慌てて職場の人間に外へ出るように指示し、外から見た光景は経験した事のないものでした。

家族は無事か、家は大丈夫か、いろいろな事が頭をよぎりますが電話もメールもつながりません。余震に備えながら会社に戻ってみますが、事務所や倉庫は手をつけられない状態です。鳴りやまない緊急車両のサイレン、上空を旋回するヘリコプター。津波警報の発令や避難を呼びかけ続ける防災無線。避難してきた人であふれる公園。すべてが初めて体験するものでした。でも、そのような恐怖感や不安感の中、落ち着いて行動出来たことはありがたいことでした。

そして、交通手段の遮断された都内を約3時間歩き、たどり着いた関東甲信越セントラルオフィスにいた6人の仲間の顔を見たときに何とも言えない安堵感があふれてきました。

震災の2日後、東北地域の評議員仲間に電話をしてみました。案の定まったくつながりません。被害の大き

な地域なので、最悪の事態を考えながらもメールを送りますが返信はきません。大丈夫なんだろうか・・・そう案じながらも数日後に『家は壊れたけど無事です』とメールが届きました。よかった、の一言です。そして、それから一週間後に別の仲間にも連絡がとれ無事を知らされました。

驚いたのは震災直後の大混乱のさなかに、仲間たちのためにミーティング場を確保しなければ、という仲間意識でした。すばやく仙台市内の病院の協力を得て連日のミーティング場を確保し、J S Oホームページには全国のメンバーに向けたメッセージと東北地域でのミーティング開催状況などを掲載しました。

**そのような状況を見守りながら約1ヶ月半がすぎ、**

新幹線も仙台まで開通したことから、「ぜひ仙台のミーティングに行こう」となった訳です。まず、仙台駅を降り立って驚いたのは人の多さと活気でした。数キロ離れたところでは津波ですさまじい被害を被った地域とは思えない活気でした。そんな雰囲気の中、まずは仙台名物の牛タンをいただきミーティング場へと向かいました。

ミーティング場で出迎えてくれた評議員仲間や、前週の全国7地域広報交流会で一緒した福島地区の仲間等、皆さんそれぞれに大変な思いをされたのにも関わらず、疲れを見せずミーティング場に集まり、過去どのようであり、何が起って今どうなっているかを淡々と分かち合う仲間たちの姿には大きな力をいただいた思いです。

まだまだA Aメンバーの被害状況は大雑把にしか把握できていないようですが、家やご家族を失ってしまった仲間もいるようです。また、避難所で窮屈な生活を強いられている仲間や仕事を失ってしまった仲間もいると思います。

一部の報道によれば、避難所でアルコールに溺れていく人も見受けられるとのこと。でも、東北地域のA Aメンバーの皆さんには、とても大きな経験と力と希望で、苦しんでいる仲間を助け、ともに力強く支えあい、今まで以上に穏やかな日常生活が戻ることを確信しています。

**最後に、**

前号のニューズレターの巻頭にアメリカ・ニューオーリンズでの災害時の献金について記されています。今回の大震災でも同じことが言えるのではないのでしょうか。仲間たち、いま苦しんでいる仲間たちの手助けをしたい。誰しも考えることは同じだと思います。

しかし、東北地域の自立という観点から、献金の申し出は大変ありがたいですが、まずは辞退し被害状況が明らかになり東北地域だけの力では及ばないところがあればJ S Oを通じ全国の地域に支援をお願いすることになったようです。

このようなことから、我々も無用に東北地域を混乱させることのないよう、東北地域の考えを第一に考え、尊重すべきではないでしょうか。

私もまた力をもらいに東北地域に行くつもりです。

## 東北地域見聞録（その2）

東京 三ノ輪G 仲嶋

今回の震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

**3月11日の震災以来、**

日に日に明らかになっていく東北地域を中心とした被害を知るにつれて、何かできないだろうか、特にA Aのメンバーとして、東北地域の仲間に何かできないだろうかと考えるようになった。最初に思いついたのは、関東甲信越地域で東北地域に対する特別献金を行うというものだった。

しかし、これはサービス経験豊かな仲間と話したところ、地域の自立という観点から止めたほうが良いと聞かされ断念した。だが、この時に人的な支援であればいくらでも構わないということも聞き、それならば東北地域、特にサービス活動で知り合った仲間がいる宮城のミーティングに参加してみようという気になった。

**こんなことを考えるのは自分しかいない**

と思っていたが、仲間と話したところ、自分も考えていたと意気投合し、4月29日に一緒に行くことになった。4月29日はゴールデンウィーク初日で、東北新幹線が新青森まで運転再開した初日でもあった。新幹線はほぼ満席で、仙台駅で降りて駅前に出てみると、街の様子はあまり震災の影響を感じさせなかったが、随所に復興への意欲を示した垂れ幕が掛かっていたり、通りで配布しているコミュニティ紙を読むと、復興への思いが語られていたりやはり震災のことを意識せざるを得なかった。

**ミーティングは、**

臨時に東北地域で開催しているもので病院の1室を借りてのものであった。会場に入ると普段自分が参加しているミーティングと何ら変わりなく、仲間が迎えてくれて、その中のサービス活動で知り合った仲間とお互いの無事を確認して再会できたことを喜び合った。

ミーティングそのものも、震災のことよりも、今日一日一杯の酒に手を付けないこと、飲まない日々を続けていくことによって、自分も東北も回復していけるんだといった希望にあふれるものであった。結局、仲間の役に立とう、仲間を元気づけてあげようと思って行ったのだが、元気づけられたのは私の方だった。

**ミーティング終了後、**

仲間の車で仙台駅まで送ってもらい、その車中で被害の生々しい状況も聞くことが出来た。みんな物質的、精神的にいろいろな意味で少なからず被害は受けているのだが、そのことは表に出さず、A Aメンバーとして飲まない生活を続けているのが感じられた。

わずか数時間の滞在では、とても東北地域の仲間の様子を知るなどということではできないが、仲間の笑顔、やる気に触れて少しほっとしたと同時に飲まない喜びを味わうことができた。





### 3.1.1 大震災、そしてそれから

岩手県 Y

その時、職業訓練の教室でパソコンに向かっていた。激しさが増す長い揺れで屋外に出る指示があつて、外に出た。それぞれに飛び出した人々で車道にあふれるほどだった。帰路に着くと停電で信号が作動せず、あちこちで大渋滞が起こっていた。ガソリンスタンドの店員さんが交通誘導を引き受けてくれていた。交差点を曲って家に着くと、ヘルメットを被った妻たちが入口で怯えていた。こうして大震災が始まった。

電気が復旧してテレビで何が起きたのかが少しずつ伝わってきた。逃げ延びた女性が、生きているだけでいいんだ、と涙ぐんだ。

求職の身であること、貯えがないこと、AAのミーティングがとりわけ被災地にはないこと等々、残念に思った。

地元のミーティングは会場が使えなくなって外で待機、そのまま外でミーティングをした。その一回は甲斐の時になった。暗い夜空に星が煌々と光っていた。

仲間が亡くなったと、父の遺品の携帯から息子さんがメールで知らせてくれた。ガソリンがなくてミーティングに行けない日が続いた。翌月の会場予約に4時間歩いた。この会場では3年以上ほとんど1人でミーティングを続けている。1人ミーティングだけど、こんな時だからこそ仲間が来るのではないかと・・・そんな思いだった。

ガソリンスタンドの長蛇の列に並ばなかったせいで車に乗ったのは3月の末のことだ。やっと水沢（奥州市）のミーティングに行けた。いつもより少ないけどやっと仲間のいるミーティングに出席できた。（後で本当にガソリンが必要なのは、家を失い車に退避をしているそんな人達だ、と仲間が言った。）

私製ホームページで案内し続ける仲間に連絡し、再開ミーティング情報を関係機関に手書きで緊急広報して、3月が終わった。

4月になって、やっと一関のミーティング。確か震災当日がミーティング当日だった。当時は月に2回開いていたが、前はガソリンがなくて行けなかった。津波被害に近い仲間が、被災地に向かう自衛隊の車の様子を話してくれた。

この会場を1年前から始めた彼は4月末亡くなった。職場で脳溢血で倒れたらしい。5月になってから仲間からのメールで知った。いい奴だった。後に当地の仲間は不在になったけど、月に1回のミーティングを続けることになった。

その後被災地へ。鳴瀬川のかなり上流から津波の痕跡、土埃、瓦礫が見え始め、野蒜（東松島市。昨秋の東北ラウンド・アップの地）は壊滅...

そして、石巻市の知人に再会した。母方の親類ほとんどが行方不明らしい。

その足で、瓦礫しかなく人影もない志津川の近くを遠回りして大崎市のミーティングを訪ねた。会場は地震で変更、やっと辿り着いた。建物の周りの地面が壊れていた。ミーティングで会えてよかった、と云う気持ちが伝わってきた。この被災地行で、TVで観ることと実際に見ることは違う、自分のなかの何かが変えられた、そんな感じだ。たぶんAAと出会わなかったら見てきたと自慢げに話す自分しかいなかったように思う。

それから初めて久慈市の関係者を訪ね、八戸市のミーティング（確か再開初日だった）病院からの患者さんが酒で震災前後の10日間の記憶がない、と分かち合ってくれた。9.11の自分を思い出した。

仲間のパソコンでJSOのホームページに修正情報を送ったり、また郵便物のこころのケアの印刷物の応援を頂いたのもこの頃だ。有難かった。だけど、震災直後の「生きてるだけでいいんだ」という気付きから遠い自分がいた。いのちの始まり、酒の止まり始め...。初めを始め続けることのできない、そんな自分を受け入れ、祈ったのもこの頃だ。

女川に近いグループのミーティングも再開した。無事だった仲間、実は家族が行方不明という。仲間と行けた山形のオープン・スピーカーズ・ミーティング。ブルーシート会場や青空ミーティング。オオーオー、そうだったのかと云う分かち合い。2、3人が分かち合う。それを続けそれをも含んだプログラム、AAが効くことをあらためて知ることになった。

昨年失業し、広報フォーラム、ラウンド・アップ、北東北の集い、矯正フォーラム、亡くなった仲間が応援してくれた就業支援、ワープロ3級、求職、そして大震災、そのどこにもAAそして仲間が寄り添ってくれていた。ノープロブレム、そんな今を味わうことができるようになっていく。震災で亡くなった方々、未だ被災にある方々、そしていろんな困難にある方々、だからこそ次に向かいたい、そう思う。

後に宮城県北のボランティアの宿泊地を訪ねた。その殉教の記念塚に佇み、やっと祈ることができた。あれから2ヶ月半が過ぎていた。

#### 新カタログ完成のお知らせ

新カタログが完成しました。ご入用の方はJSOまでご連絡ください。ホームページからもダウンロードできますのでご活用ください。

J S O



編集・発行： NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> [jso-10@fol.hi-ho.ne.jp](mailto:jso-10@fol.hi-ho.ne.jp)

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休